

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年六月度 入選句（投稿総数一八九二句・一般投句数五四七句）

特選

結び葉に入り乱れつつ雀どち

大垣市

野村 多佳子

梅雨に入りうつとうしい日々が続く今日此の頃です。「結び葉」とは若葉が新緑となり緑と変り、枝葉が伸び重なりあい影も濃くなる此の頃の事をいう。子雀がチツチと言いながら土を啄んでいるのをよく見る。

何かの音に驚きぱつと翔び立つたのだろうか、一斉に樹にかくれたような景が浮ぶ秀句に出逢えてとても嬉しいです。

青梅雨や香をくゆらしつつ写経

不破郡垂井町

高木 紫雲

この句は前の句とは違い、しつとりとした静かな景が浮んで来ます。「青梅雨」とは「青葉の頃の梅雨」といふところ。すなわちしとしとと降る雨のこと。香を燻らせながら写経をしているところが目に浮びます。青梅雨がとてもしつくりした季語だと思います。優雅で心落ち着く句です。

円卓に紅茶が二つ若葉風

愛知県名古屋市

舘野 茂子

何とでも想像でき読者を楽しませる句だと思う。私は若い頃を思い出させてくれました。何も言わなくても心温まる素敵な句です。

三人三様の句にとっても楽しませていただきました。

秀逸

山風に余さず揺るる根尾桜

大垣市

日比野 友子

雨あがり艶ひときはの花菖蒲

安八郡神戸町

早津 郁男

あつけなく仲直りして草の笛

大垣市

鶴田 信子

たつぷりと日の詰まりたる露地苺

大垣市

宮脇 和子

ひさかたにジャズ聞く外は梅雨しとど

大垣市

安部 芳枝

書架の本積まれしままや走り梅雨

大垣市

森川 きよ子

水が水押して青田にあふれけり

大垣市

棚橋 昭子

木の洞に寸の石仏遠青嶺

東京都世田谷区

関戸 信治

くすぶりを残し薄暑の登り窯

三重県四日市市

後藤 允孝

里山の若葉百色目にやさし

滋賀県甲賀市

甲賀 忍者

入選

藤棚を潜りて甘き香を纏ふ
武者窓を通り抜けたり初夏の風
馴染みなき人もまじりて溝凌へ
暗渠よりぬつと顔出る溝凌へ
舂酒を交はして尽きぬ宵祭
夏祭香具師はピアスの優男
あぜ道のまつすぐ伸びる麦の秋
ピアノ果て静寂に沙羅の花の風
水音に揺るる素振りの山法師
噴水や崩るるときの風青し

大垣市	伊藤 美翠
不破郡垂井町	内海 白涛
大垣市	岡田 あや子
大垣市	臼井 秀子
不破郡垂井町	西垣 和志
大垣市	村田 通夫
岐阜市	島 めぐみ
岐阜市	伊藤 瑞実
岐阜市	富永 萬里
福井県福井市	三ツ山 ひろし

入選

若葉風ちらり振り向く参観日
妻の留守二日つづけて豆ごはん
かけ違う釦のありてリラの冷
山畑に鋤ふる翁明易し
紫陽花の光る雫も濃紫
ごきぶりを四の五の言はず潰しけり
天ぷらに若葉一枚店の粋
遠鳴りの波音耳に昼寝かな
鮎の宿古城しづかに匂ひけり
天空の茶摘に通ふつづら道

大垣市	傍島 豊子
大垣市	傍島 隆
大垣市	新町 恵子
長野県下伊那郡	長沼 まさし
千葉県千葉市	箕輪 恵一
愛知県名古屋市	岩田 遊泉
静岡県静岡市	松永 信介
大垣市	高石 政明
岐阜市	野田 葉月
瑞穂市	谷 牛歩

選者吟

風みどり山の足湯に透く十指

美代子